

共に生きて I

紙面についてのご意見、感想をお寄せください。メール、ファクスで受け付けます。郵送の場合は〒810-8721(住所不要)、西日本新聞生活特報部へ。

生活特報部 FAX 092 (711) 9056 メール seikatsu@nishinippon-np.jp



4

登山 万佐子

新生児との生活といえは、眠い目をこすりながらの授乳とおむつ交換ですよね。長男(13)はその通りで、分娩台ですぐに抱っこし、初めての授乳。母になったことを実感しました。おっぱいもよく飲み、生後20日には1回100ミリほど飲むようになります。体重も1キ増えています。

生後80日哺乳瓶で授乳

必要な成分がより多く含まれる母乳が出るというので、娘が初めて母乳を口にしたのは生後8日目。まだ直接は飲めないで、冷凍しておいた母乳を綿棒に浸し、看護師さんが人工呼吸器がつながった口元にちょんちょんとつけてくれました。とても印象的なシーンでした。それから6時間おきに0.3リットル、管を通しての授乳が始まりました。

長女綾美(8)は違いました。一緒にいられないだけではなく、抱っこも授乳もできません。でも、たかさんの医療機器で命をつないでいる保育器の中の赤ちゃんにとっても、母乳が大切なのは同じです。初乳には赤ちゃんに

ところが、入院中に母乳の指導を受けたり、搾乳したりした記憶が抜け落ちていました。「母乳20リットルを看護師に預ける」と自分でメモしていたのに、です。出産したという事実が追いついていなかったのでしょうか。

退院後、冷凍した母乳とおむつを持って面会に通う日々が始まりました。母乳パックはドラッグストアでも売られていますが、おむつは低出生体重児用でも体重400gの娘には大きすぎます。看護師さんに薦められたのは、成人女性用尿漏れパッドの最小サイズ。時々、看護師さんがガイズでかわいいおむつスタイルにしてくれました。娘の命の危険と向き合う非日常的な日々で、ふと緊張が緩む瞬間でした。娘が飲む母乳が1リットル、2リットルと増えるにつれ、体重も少しずつ増えていきました。1kg単位の体重増加がどれだけうれしかったか。増えては減って、減っては増えて。一進一退。当時の私の頭の中では「ト、ト、ト進んで二歩さがる」と、ずっと「三百六十五歩のマーチ」の歌が流れていました。

生後80日を過ぎ、保育器の中で哺乳瓶から直接飲む練習が始まりました。ところが、すぐ医療機器の赤ランプが点滅します。「飲む」と「呼吸」を同時にするのが大変なので、ミルクが腸に詰まって手術した子もいます。

哺乳瓶から母乳を飲む綾美ちゃん(生後3カ月ごろ)



おっぱいを飲むこと、排せつすること。できて当たり前だと思っていた一つ一つが、実は赤ちゃんがとても頑張っている行為なのです。新生児集中治療室(NICU)にいた日々を知ったことです。(「N」子クラブ カンガルーの親子」代表、福岡県筑紫野市)